

# 活動報告 第19班

---

▶ 派遣期間:7月12日～7月15日

▶ 派遣メンバー

真栄里仁（医師）

小幡真希（心理療法士）

山本史（看護師）

▶ 活動地域:大船渡市の避難所、  
仮設住宅など



# 活動内容

---

## ▶ 訪問診療・カウンセリング

- ▶ 延べ15件(電話相談1件)、うち新規2件
- ▶ 内訳(重複あり)

病名・症状	件数
うつ病、抑うつ状態	5
不眠	2
PTSD、PTSD回復後	3
アルコール関連問題	4
家庭問題、悩み	2
発達遅滞	1



# この期間にみられた問題、訴えや症状

---

- ▶ **イライラする**
- ▶ **眠れない、夜中に目が覚める**
- ▶ **人が流された夢を見る**
- ▶ **地震・津波警報でフラッシュバック**
  - ▶ **訪問数日前に余震があり津波警報が発令された**
- ▶ **アルコール多飲**
- ▶ **仕事をしたいけれど見つからない**
- ▶ **(仮設住宅)近所の目が気になる**
- ▶ **仮設住宅入居に伴う問題**
- ▶ **自治体の対応に対する不満**



# さまざまなケースに対応



## ▶ アルコール関連問題

- ▶ 介入ツール・飲酒日記などを用いて継続して介入

## ▶ 心理療法士によるカウンセリング

- ▶ 仮設住宅への入居に伴い姑との人間関係の悩みが深刻化し、訴えの傾聴と自治体との調整を行う
- ▶ 震災前から入居していた市営住宅に被害に対する自治体の対応に不満があるという訴えに対し、中立的な立場で傾聴
- ▶ うつ病で地元病院に通院中であるが、長年の人生の中での悩みから苦痛を抱えており、傾聴することで対応



# 定例ミーティングでの報告より

---

- ▶ **県立大船渡病院 救命救急センター 医師より**
  - ▶ 4月～6月の血管障害系の救急搬送数は例年並みであり、懸念された震災の影響による増加は認められなかった。
  - ▶ 保健師等の地域支援の効果であると考えられる。
  
- ▶ **市民環境生活課対応**
  - ▶ 沿岸の害虫駆除対策を行った(1回)。



## 今回感じた問題点

---

- ▶ 仮設住宅への入居が進むにつれ、それに伴う問題が発生している。
- ▶ 自治体で取り扱う問題ケースの中に、医療チームの介入による問題解決を図ろうとしているものがある。
- ▶ カウンセリング対象ケースについて、派遣要員が毎週交替するなどの体制について事前説明を明確に行う必要がある。
- ▶ 7月から医療費が自己負担となり、それを理由に医療チームの介入を拒否するケースがあった(院外処方にお金がかかる)。
- ▶ 派遣期間の短縮とミーティング回数の減少により患者情報がつかみにくくなっている(例:訪問継続ケースの方が入院した、など)



## まとめ

---

- ▶ **災害発生から4ヶ月が経過した。**
  - ▶ **アルコール関連問題に対し、新規ケースへの介入を開始した。陸前高田のアルコールケースも受けており、アルコール関連問題が徐々に増加していると思われる。早期介入ができるよう状況把握をしていくことが大切。**
  - ▶ **カウンセリング対象ケースは、今後も増加が予想される。医療チームができることには限りがあり、保健所や自治体との情報交換や連携を図っていく必要がある。**
- 

